

大野市総合戦略

令和元年度の実績に対する評価と意見

◆ 令和元年度実績に対する人口減少対策会議委員の評価結果

	施策 1	施策 2	施策 3	施策 4
A 評価	23.5%	35.3%	17.7%	23.5%
B 評価	70.6%	58.8%	58.8%	53.0%
C 評価	5.9%	5.9%	23.5%	23.5%

【説明】 A 評価（順調に進んでいる）／B 評価（まだ判断できない）
C 評価（新たな視点での取り組みが必要）

（参考）平成 30 年度実績に対する人口減少対策会議委員の評価結果

	施策 1	施策 2	施策 3	施策 4
A 評価	10.0%	45.0%	10.0%	20.0%
B 評価	85.0%	50.0%	45.0%	70.0%
C 評価	5.0%	5.0%	45.0%	10.0%

◆ 人口減少対策会議委員からの意見

【施策Ⅰ：安定した雇用を創出する】

- ・企業立地件数を増やしていくことが必要。
- ・新たな産業団地の整備とあるが、現在造成した産業団地の誘致は進んでいるのか。進んでいないのであれば新設より誘致を進めたほうがよい。
- ・インキュベート施設の充実などベンチャー企業やNPO法人の立ち上げに対する支援が必要。
- ・IT企業に対する優遇などが必要。
- ・空き古民家等に高速大容量ネット環境を構築することで、県外企業のリモートオフィスとして整備し、新たな雇用を生み出す。(これからの新しい生活様式として活用)
- ・林業従事者の冬期間の雇用維持に向けた施策を検討してもらいたい。
- ・地元にも魅力ある企業が多くあると思うので、引き続き「働く人にやさしい企業応援事業」を推進してもらいたい。
- ・働きやすい職場環境については、企業の協力要請が重要な課題だと思う。制度があっても活用できる状況にあるかどうかの調査も必要ではないか。
- ・中部縦貫自動車道の完成とともに産業団地や道の駅の完成で新規企業の誘致条件も良くなり、新しい生活様式の普及とともに会社に出社しなくても仕事が可能な社会となると、有望な若者が都会へ出なくても郷土で働ける受け皿を作る必要があると思う。
- ・第1次産業（農林業）の人手不足、担い手確保に向けた雇用の創出や受け皿づくり、建設業、商工業、観光関連産業を含めた目標を各委員と共有して人口減少に立ち向かう方針を確保してはどうか。市として各業界としっかり連携するよう求める。

【施策2：新しいひとの流れをつくる】

- ・映画やドラマのロケを誘致するとよい。
- ・まちなか観光として越前大野城、内山家などの入館者数も身近な目標値として挙げてよいのではないか。
- ・今後、重点道の駅の完成が期待される。
- ・大野で開催される祭りや各種イベントにあわせて、福井を訪れた人々が大野まで、列車内でも楽しめるような直通イベント列車を四季に応じて毎年運行し、固定化した人の流れを創出する。大野駅からの会場への移動手段も必要。
- ・観光客が増えることも大事だが、観光客は一時的な増加なので、もっと人が根付いてくれるような施策を望む。鯖江市のように体験移住をもっと大々的に行い移住者を増やす、若い人の雇用を増やし子どもを育てやすい環境を整えるなど。
- ・まちなか商店街の元気がなくシャッターを下ろしている。駐車場も増えている。事業を継承する人がいない商店などとお店をやりたい人をつなぐことに力を入れる施策を。
- ・特産品の生産者の高齢化に伴い生産量の減少があるが、サトイモなどは生産者の手取りがあまりにも少ないことも生産面積が減少する要因。
- ・移住促進が必要。
- ・都会で暮らす家族を夏休みなどに自然豊かな環境でホームステイしてもらうとよい。
- ・まだまだ大野ブランドのPRが足りない。良いものはたくさんある。
- ・世界の生活様式が大きく変化している可能性がある今こそ、安全で安心な自然環境豊富な大野のブランドを示す手立てが必要と考える。
- ・コロナウイルスのリスク軽減のため、東京一極集中から地方分散の要望を県、政府に働きかけることが必要。
- ・新型コロナウイルス感染症と社会、経済活動の共生の中で、人の動き、流れは大きく変わった。また、中部縦貫自動車道の開通見通しも変わったことから、市全体で観光、企業誘致の方針を見直し、ブランド化（底上げ）と発信のあり方も再考。次期戦略に位置付けをしていってはどうか。地域内循環の仕組み構築を望む。
- ・指標や目標を数値化して分かりやすくするなど、地域の住民が大野の魅力や観光資源に自信や誇りを持つ取組みが必要。

【施策3：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる】

- ・子育て環境が優れている。
- ・結婚への支援はなかなか難しいようだが、子育て支援についてはほとんどの項目で目標を達成しており評価できる。住みやすいまちづくりのためにも引き続き取り組んでもらいたい。
- ・今までは高校生の大半が県外（都会）の大学に進学していたが、現在の自粛生活の中では大学生は学校へ行かずリモート授業が中心になっている。授業においてもリモート授業が日常化してくると生活の中心が地元ででき、若者の流出を防げるのではないか。
- ・人口減少を食い止めるためのもう一段手厚い支援を望む。財政難の折、困難は予想されるが。
- ・子育て支援は進んでいるように見えるが、結婚への支援を考える必要がある。
- ・「大野ですくすく子育て応援パッケージ」の内容とても良いと思う。結婚への支援、医療の充実等まだまだ課題はあると思うが、一つアピールできる部分があったと感じた。
- ・古くなるが、街コンなどで出会いの場を作る（六呂師や和泉など自然の中で）。
- ・若い世代が安心して子育てできるための生活面での様々な支援は必要だが、働く親の職場においても、子育てのために気軽に休暇をとったり育児休業したりできる制度や理解、またそのための企業に対する支援も必要ではないか。
- ・結婚への具体的な支援がもう少し必要だと思う。企業同士のイベント等が開催できると良い。
- ・子育て支援として、放課後の学童保育などを充実して親が安心して働くことができる社会を作ることが大切と思う。
- ・医学部進学希望の学生に大野市には小児科がなくて困っている現状を知ってもらい、地元での開業につなげられないかと思う。
- ・市全体のICT環境を整え、テレワークがしやすい環境を整備することが必要。
- ・子育て世帯の税制優遇措置があるとよい。
- ・総合計画基本構想「こども」分野を最上位計画の中で位置付け、令和2年度予算において「大野ですくすく子育て応援パッケージ」を打ち出したことから、引き続き指標を掲げ、施策を推進してはどうか。ホームページの情報集約とSNSの連動、社会全体の雰囲気づくりを進めるべき。

【施策４：時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する】

- ・小さい子どもやお年寄りに優しい公共交通が必要。
- ・いろいろと取組みをしており、今後を期待している。
- ・新型コロナウイルスを経験した今では、都会より地方の方がより安全安心と考える人が多くなり、地方への人口の移動が進むと考えられる。
- ・地域のために働く意欲を持った若者を育て、その活動を支援する体制を充実する。
- ・コロナウイルス感染の観点から、安全安心なまちづくり地域づくりを考え直す必要がある。
- ・学校再編等の結果で地域が壊れてしまう可能性もあると思う。地域を大切にしつつ時代に合うように考えなければいけない。時代に合った地域がどういうものかから考えたほうがよいと思う。
- ・ネット通販やウェブ申請、テレビ診療など、移動の負担が少ないネットサービスが進む中、実際に高齢者がそれらを使いこなすのは困難である。集会や公民館等で開催される趣味の講座等を利用して講習会を開き、ご近所同士で助け合えるお互い様の輪を広げていくことが必要。
- ・今回、新型コロナウイルス感染症の問題が出てきて安心して健康な暮らしの重要性を痛感した。特に高齢者の割合が高いので、新しい生活をどう具体化するかが重要。
- ・一人暮らしの高齢者が増えているが、地域で支えるにしてもお互いが高齢者でなかなか難しい。自主防災組織も地域で結成していて目標値に近いが机上の組織に近く、具体的に災害が発生したときに動ける組織にしていくための訓練の実施率を目標にしてはどうか。
- ・50年、100年と続くイベントや祭りを地場産業として立ち上げるとよい。
- ・市内の区の統合を検討することが必要。
- ・コミュニティーバスや移動販売の充実など高齢者に優しいまちづくりが必要。
- ・行政が考える地域づくり、水への恩返しCWP事業などではなく、公民館を核にした地域づくり、住民全体で作っていくべきであり、公民館ごとの人口減少率抑制や人口の年齢構成変更に向けた取組みを推し進めてはどうか。まずは各行政区へ情報を出して現状認識を持ってもらうなどアクションを起こすべき。

◆ 意見から見えるキーワード

【施策1：安定した雇用を創出する】

- 新しい生活様式に合った環境整備の促進

【施策2：新しいひとの流れをつくる】

- 地方回帰の流れを捉えた移住定住施策の展開

【施策3：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる】

- 子育て世代に優しいまちづくりのさらなる推進

【施策4：時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する】

- 高齢者も健康で暮らせる安全安心な地域づくり
- 住民主体の地域づくり